

# 自動塗装システム増強

## 協伸静塗 溶剤使用量削減へ

金属製品表面塗装加工の協伸静塗(高岡市吉久、加藤一博社長)は八月下旬、新鋭の自動静電塗装システムを増強する。値上がりが続く石油系溶剤や塗料の使用量を抑えるのが狙いで、コスト削減を防ぐため、塗装前に化成皮膜処理を施しそのうえで熱硬化型樹脂塗料をスプレーで吹き付けている。



金属製品は腐食や酸化を防ぐため、塗装前に化成皮膜処理を施しそのうえで熱硬化型樹脂塗料をスプレーで吹き付けている。

同社では手新鋭の自動静電塗装システムを導入する協伸静塗の塗装ブース

作業で吹き付けを行って

いるほか、三台の自動塗装システムを稼働させている。このうち昨年導入した新鋭システム一台は、センサーで金属部品の形状を感知し、必要量だけを吹き付ける機能を備えている。従来のシステムに比べて、溶剤と塗料の量は約半分で済み、厚塗りや液だれによる不良品の発生率低下にも効果を発揮している。

原油高を背景に、石油系溶剤の価格の高止まり傾向が続ぎ、原材料の調達コスト削減を迫られているほか、これまで産廃業者に委託していた塗料スラッジ(くず)処理の費用圧縮も見込めること

から、残り二台のうち一台も新鋭システムに切り替えることにした。

本格稼働は十七日の予定で、既存の塗装ブース内の設備を取り換える。